

2020年度の年間の活動

1. コロナ禍における生活環境の変化と活動

1) 居住地区内の活動の変化と制限

(1) 行政主導から住民主体へ

2021年が幕を開けましたが、2019年から流行が始まった新型コロナウイルスが猛威を振るい、我々の活動にも多大なる影響を与え続ける日々であります。

一昨年度の受賞から、今回3年目の活動報告となりますおひさまのまち花ヶ浦においては、行政(粕屋町・粕屋町土地開発公社)、住宅事業者(九州セキスイハイム不動産(株))、住民の三位一体の取り組みは元より、昨年度以前の『行政による先導的役割により、居住者が住みやすい、誰もが住みたくなるまちづくり』をベースとした管理・先導されていた流れから、住民主体の流れへと発展してきました。

今年度の役員も以前と全く違う環境下の中、より一層力を合わせ一丸となり、コミュニティの環境改善・維持に努めて参りました。以前も記載しましたが、『我々だけがその恩恵を受けるだけでなく、近隣地区との関係性の向上に一步踏み出さなければならない』との考えは変わらず、居住地区内の行事・イベントへの参加や、おひさまのまち花ヶ浦主体での近隣地区を巻き込んだ融和団結を図る催しを企画する予定でしたが、コロナ禍により断念することになりました。

この状況下でも、今期の役員は我々に何かできることはないかと模索しましたが、実施できない事の方が多く、コロナ禍と言う大きな壁に阻まれた中での活動となりました。

(2) 環境美化活動の制限内での実施

そんな中、手掛ることが出来た事業は例年実施している、環境美化活動でした。これは、花ヶ浦区主体で毎年実施しており、区の中に含まれる一つの組として住居地区の植栽整備を行うものです。

短時間で行う事を重視して、場所が野外であることも考慮し、ソーシャルディスタンスも保てるとの区の判断で実施しています。

参加して下さった住民の方々も、イベント等の無い中だったので一丸となり作業を進めてくれましたので、公園内の環境美化活動として成果が見られました。



2. コロナ禍の社会情勢における防疫意識の向上

1) 住民の感染予防に対する意識：「防疫講座」による普及教育

毎日のニュースで『コロナウイルス』の情報が伝わってくる日々、集まって懇親会や会合が実施出来ず、地域交流も図れませんでした。役員として頭を悩ませていたところ、粕屋町役場各課・粕屋町商工会の皆様、花ヶ浦区の区役員等、各方々に相談し、知識・経験等をお持ちの皆様にお力添えを頂きながら辿り着いたのは、『粕屋町まちづくり出前講座』と言う粕屋町主体で実施されている、町職員から住民への住み良いまちづくり支援の為の事業でした。

その中で我々は『防疫講座』について依頼をしました。『防疫講座』を選んだ理由については、1年目は『防災』、2年目は『防犯』についてイベントの付随講座を開催した流れがあり、コロナ禍である今は『防疫』が住民にとって一番求められている事柄ではないかと判断した経緯によるものです。

担当して下さったのは、粕屋町健康づくり課健康推進係の保健師の方で、こちらの細々とした要望を快く引き受けて下さり、福岡県農林水産部から数多くの資料を取り寄せて下さったりと、保健師目線での知識・町内での状況に応じたウイルス感染症等の予防方法の具体的な提案等、基礎的な体や心の健康の在り方、作り方など多くの情報を元に講座を開催して下さいました。

会場も、窓を開けて換気し、ソーシャルディスタンスを心掛け、マスク着用、体温測定を事前実施して、手作りのフィルムスクリーンを設置して感染防止を徹底した環境において万全を期しました。

【開催当日の様子】



3. 居住地区生活環境の向上

1) 中央公園の土留めと飛び出し事故防止

土留め設置について、完成しました。

【以前】



【現在】



受賞を契機に新たに取り組んでいること

1. 地域への貢献と区の共助力の確立

住民同士のコミュニケーションが希薄化しつつある昨今、おひさまのまち花ヶ浦では、個人が家族と、家族が近所と、近所が組や区と共に手と手を取って、地域における助け合いのベースとなる強い関係性の構築の姿が見えてきました。以前は、隣に住んでいる方がどのような方かもわからない状況でしたが、毎年環境美化活動や地域行事等の実施を重ねるとともに、おひさまのまち花ヶ浦からの花ヶ浦区区役員・各育成部等への就任・協力において、花ヶ浦区内で新規居住地域だったおひさまのまち花ヶ浦（花ヶ浦区16組）としても、周囲の既存住民の皆様に周知され、区の仲間として受け入れられた実績を得る事が出来ました。

また、花ヶ浦区として、自主防災組織を設立する動きとなり、地域の防災体制が確立する事になります。これも、おひさまのまち花ヶ浦が、受賞を契機に【防災・防犯・防疫】と講義やイベント活動を率先して実施してきた事が花ヶ浦区に良い影響を与えたことによるものであると考えています。今後も花ヶ浦区の一組として、花ヶ浦区や粕屋町を支える一端であるとともに、継続して防災関連活動に取り組んでいきたいと考えています。

維持管理活動支援費の用途

- 防疫講座と合わせた『防疫・防犯・防災』に関する各世帯物品の購入
(防疫講座はコロナ禍の為役員のみ10名参加・未参加者には関連教育資料配布)
- 中央公園維持管理水道散布資材購入

引き続き近い将来取り組む課題

1. 近隣地域との和を繋ぐ交流

近年、粕屋町は隣接する政令指定都市 福岡市のベッドタウンとして、急速に人口が増加し、新たな大規模宅地開発も進んでいます。そのような地域から近隣地域と交流を図り、景観の維持向上や防災関連のノウハウ等を共有することで、おひさまのまち花ヶ浦が主軸となり、粕屋町全体の住みやすさ向上を図る必要があると考えています。

2. 防災・防犯・防疫対策の充実

将来にわたって誰もが安心して住み続けられる街を目指すべく、居住に関して安心・安全については今後も継続して教育を徹底し、住民全員で認識を共有する必要があります。

3. まちなみの持続可能な維持管理

中央公園花壇の維持管理については、住民から任意のボランティアを募って実施しています。年々、役員が知恵を出し合い持続的な維持管理のため、ボランティアの負担軽減が来ています。また、ボランティア協力者を増やしていく施策を講じる必要があります。

入居開始後の経年劣化により、枯れた植栽等・壊れた外構部もあり、これらの更新を見積もりながら、長期的に緑豊かなまちなみを維持していく策を検討すべく、住民と粕屋町、セキスイハイム福岡との連携が必要不可欠です。